

夏祭りのはしご



岸本周平
Kishimoto Shuhei
中央大学客員教授

<http://www.shuhei-k.jp>

<http://blog.goo.ne.jp/shu0712>



暑い夏です。私にとっては、2005年の衆議院総選挙も入れて4回目の夏がやって来ました。「路上政治家」といわれて3年。真夏の直射日光は、「路上政治家」にはきついものがあります。顔を売るのが仕事ですから、帽子をかぶるわけにもいきません。

毎年、夏がやって来ると、夏祭りや盆踊りのはしごをしなければなりません。現職の国会議員ではありませんから、招待されるわけではありません。つてを頼って、まあ「勝手に」押しかけるわけです。来賓として挨拶させてもらえるはずもなく、ただただ勝手にあいさつして回ります。

もちろん、市役所主催の市民参加型の盆踊りはどこかのグループに入れてもらって踊ります。今年で3年連続「紀州おどり ぶんだら節」の踊りの輪の中にいました。

そして、和歌山市の有名な花火大会「湊まつり」では、花火の会場近くで立ちました。藤本まり子民主党県連代表と一緒に、午後6時から午後10時まで約4時間の立礼です。事務所のスタッフと後援会の仲間が集まって来て、総勢20人近い参加

者での立礼でした。

子供連れの若いご夫婦や中高生のグループ、もちろん若いカップルなど、普段はなかなか接することのできない人々が何万人も目の前を通り過ぎて行きます。4時間立ちっぱなしで地声でのあいさつは大変です。日が暮れてからなので、その点は助かりますが、最後にはへろへろになりました。

しかしながら、私は普段からそれが仕事なので、文句は言えません。ボランティアの仲間には申しわけないことをしたと思います。途中で、血液の中から糖分が消えてしまうのです。足も棒のようになりますし、のどもぐれます。

それでも不思議なもので、目の前を何万人もの人間が通ると、元気が出てきます。ハイテンションにもなります。張り切り過ぎて、最後は私の方がへばってしまい、ボランティアの仲間の元気に引きずられて立ち続けることができました。

ちなみに、脚立の上に立ちましたので、結構花火を見ることもできました。和歌山にもこんなに若い人がいるんだと実感もしました。大勢の若い方々（小中学生もたくさんいました）に握手やハイタッチをしてもらい、ファイトがわいてきました。この3年間に勇気をいただいた大勢の皆さんには、本当に感謝の気持ちでいっぱいです。

湊まつりの二日後、和歌山市内の住宅街で辻説法をしていましたら、小学生低学年の子供が数人、走って来ます。「あっ！湊まつりのおっちゃんや！」。何と、この子たちは花火を見にきて、そこに立っていた不思議なおじさんのことを覚えていたのです。早速、彼らと花火に関して「ミニ集会」。キティーちゃんの花火で盛り上がりました。もちろん、別れ際には一人一人に名刺を渡して、「お家の人に言うといてね」——と。これは大事です。📷